

第 1 回市民活動との協働促進に向けた庁内研究会のまとめ

日時：平成 22 年 10 月 21 日（木）午後 1 時 30 分から

内容：協働事業事例発表（なごや☆子ども City2010）、グループワーク

※グループワークテーマ 「協働の良い所、悪い所を見つけよう！」

表 グループ別協働事業の取り組み度合いと重点課題

グループ	協働事業の取り組み度合い
A グループ	協働事業を頻繁に行っている課
B グループ	協働事業を行ったことがある課
C グループ	協働事業をほとんど行ったことが無い課

A グループの検討結果

＜課題＞ 「経費のルール」「専門性」「相互理解」「地域との関係」
「成果への時間」「NPO の力量、NPO の認知度」

＜重点課題＞「経費のルール」、「相互理解」、「事業目標を共有する」

- ・適切な積算が必要
- ・事前に NPO と行う事業の範囲や役割分担を明確にしておかないと、結果として経費が高くなったり、低くなったりするおそれあり
- ・お互いの理解や目標の共有には時間が不足しがちだが、最も重要

B グループの検討結果

＜課題＞ 「市民性」「専門性」「柔軟性」「ネットワーク」「信用力」
「組織力」「硬直性」「関わり」

＜重点課題＞「組織力」「硬直性」「関わり」

- ・ NPO 側の課題として組織力が脆弱
- ・ 行政側の課題として決裁等に時間がかかる、基準が厳しいなどの硬直的な特性あり
- ・ お互いを補完し合い、長所を活かして協働するため、相互の関わり方が重要

C グループの検討結果

＜課題＞「組織」「専門性」「熱意」「役割分担」「つながり」「相互理解」
＜重点課題＞ 「相互理解」

- ・ NPO は専門性・意欲が高く、NPO 相互や市民とのつながりが強固
- ・ NPO の課題としてはフットワークが軽い反面、責任や手続きを軽視しがち
- ・ お互いの理解には時間がかかるが、相互の役割分担を明確にすることが重要



○協働における重要課題…「相互理解（関わり）」「事業目標の共有」「経費のルール」「両者の課題の補完（組織力・硬直性）」

協働の基本原則

- ①お互いの特性の理解
- ②目標・役割分担等の共有・明確化

→ 協働の手引書へ反映

A グループ

重点課題

①経費のルール

②相互理解

③事業目標を共有する

タイトル	○ 良い所	▲ 悪い所	NPOのイメージ
専門性	◎ (経験が豊富で) 専門性が高い ◎ 安心して任せられる ◎ NPOが蓄積している見識を発揮できる ◎ 行政は視野が広がり、市民ニーズもより理解が深まる ◎ 行政だけでは手が届かない、お金をまわせないところをきめ細かく長期に取り組んでいただけている	◎ 幅が広がる (一般市民への伝え方、企画) ◎ 適した人材 ◎ 前向き、積極的な人材が豊富 (魅力的な人材) ◎ 先駆性があり、アイデアが豊か ◎ 利用者との長い人間関係を構築できる ◎ 専門性テーマ性がある ◎ 知識が豊富 ▲ 独自性が強すぎる	
経費のルール	◎ 効率的 (コスト面) ▲ 委託経費が高くつく	▲ 「公金」を使うことに深い責任を感じていない場合がないか	
相互理解	◎ 行政も NPO も互いの理解が深まる。 ▲ 互いの理解に時間がかかる ▲ 行政と NPO の相互理解の時間が不足しがち	▲ 双方 (NPO と行政) の意識の差。思いを共有できない (しにくい)	
地域との関係	◎ NPO は日頃関わりのない人たちとの関係を深めることができる ◎ 地域のニッチな所に気づいている	◎ 細かな点まで依頼できる ▲ 時に一般市民とのトラブルあり ▲ 地域の総意かどうか不明な場合がある	
成果への時間	▲ 単年度で結果を出すのは難しい ▲ 量でなく「質」の変化は見えづらい	▲ 行政は事業をやるときにプロセスに時間をかけるのに慣れていないので、プロセスに時間がかかる協働に苦労することもある	
NPO の「力量」 NPO の認知度	▲ 協働できる団体をみつけることが難しい (方向性のちがいなど) ▲ 同じ分野でも様々な NPO があり、一つとだけ関係を深めにくい ▲ 認知度が低くて集客減	▲ どのような NPO があるかわからない ▲ 担当に当りハズレ ▲ 行政に対する要求型の団体との協働は行政の負担が多くなる ▲ スキルが不十分な場合あり	・ 資金は？ ・ 法人格取得に関して深く考えずに法人になる NPO がいる ・ 行政の下請けでも全然平気な NPO もいる ・ NPO を評価する NPO が必要

Bグループ

重点課題

①組織力

②関わり

③硬直性

タイトル	○ 良い所	▲ 悪い所	NPOのイメージ
専門性	◎ 特定の課題を特化した活動 ◎ 専門知識がある ◎ 経験からの話ができる ◎ 専門的知識、ノウハウがある ◎ 専門性がある	▲ ミッションがバラバラ ▲ 歴史の影響を受ける ▲ 考え方にカタよりがある ▲ 暴走するところがある	
市民性	◎ 草の根レベルの活動 ◎ 市民の活動状況がよく分かる	◎ 市民に近い立場にある	
ネットワーク	◎ 多くの人脈、ネットワークがある ◎ ネットワークがある（持っている）	◎ NPOネットワークを活かせる ◎ 行政のみでやるより効率が良いのでは	
柔軟性	◎ 行政にはない切り口、考え方を持っている ◎ アイデアが豊か ◎ 視点が広がる ◎ 多様なサービスを提供できる	◎ NPOはフットワークが軽い ▲ 枠にはまってしまうこともあるかも・・・（対象者とか） ▲ 行政の縦割りの部分でのズレ	・ 臨機応変に事業を行うことができる
組織力	◎ 自主的に活動している ▲ 毎年実施している事業が同じで創意工夫が見られない ▲ 地域住民がメンバーの団体が少ない	▲ 構成員の力量に差がある ▲ 行政側の手間がかかる ▲ 財政基盤が弱い ▲ 規模が小さい	
信用力	◎ 調査事業等は行政と協働するとしないとでは大違い ◎ 行政の持っている情報と組み合わせられる	◎ 協働事業によって施策に位置づけられる可能性が生まれる ◎ 行政の信用力で色々な組織を巻きこみやすい	
関わり	▲ 行政－NPO、まずお互いを知らない（決まった団体とのみ） ▲ 行政の公平性（特定の団体を選ぶこと）	▲ 行政とNPOの役割分担がうまくできない ▲ 責任の所在が曖昧	・ 協働と委託の違い？
硬直性	▲ 異動で引き継がれないことがしばしば起こる ▲ タイムラグ ▲ 行政の枠（基準）の理解	▲ 役所の書類に不慣れで、きちんとした文書等が作れない ▲ 時間がかかる（広報とか、決裁とか・・・）	

Cグループ

重点課題

①相互理解

タイトル	○ 良い所	▲ 悪い所	NPOのイメージ
組織	◎ フットワークが軽い ▲ 企業と比べ責任の所在が不明確な場合がある	▲ 想いを実現することを優先する為、手続・手順を軽視する傾向がある ▲ コスト意識があるかどうか疑問である	
専門性	◎ 専門知識を有する ◎ 特定分野の専門性は高い	◎ 専門知識がある	・ 能力の高い集団
熱意	◎ 熱意がある ◎ スタッフの意欲が高い ◎ 基本的には、人が住みやすい環境を追求している所 ▲ 自分たちの思いが強すぎる	▲ 全ての人に考え方が受け入れられると思っ てはいないか？ ▲ 落としどころが見つかるかどうか不安である ▲ 好き嫌いがはっきり表に出やすい	・ 考え方が合えばとても頼りになるが逆だと・・・やりにくい ・ 精神的に豊かな人々（お金＜想い） ・ 社会を良くしていきたいと思う人？
役割分担	◎ NPOだけでは利用できないインフラ（有休施設）が使える ◎ 行政、NPO双方の強みが活かせる ◎ 行政にない発想をもっている ◎ 公・民（営利企業）が担わないエリアを担い得る	◎ 行政ができないことをしてくれる ▲ 受発注の関係になりかねない ▲ お金（予算）を求められる ▲ 公・NPOの分担（業務・責任）が区分しがたい（営利企業も同様か？） ▲ 相手の仕事を手伝うことになる	
つながり	◎ 共通の課題に多様な関係者が取り組める ◎ 市民とのつながりが強い ◎ 同じ目的を持った人との”つながり”が広がる	◎ 市民・市民活動団体との連携ネットワークが作れる ◎ 市民の意見を市政（施策）に反映できる	・ つながりたがる人々、共感しあいたい人々
相互理解	▲ 相手を理解するのに時間を要する	▲ 意見や考えなど共有に時間がかかりそう	・ どんな人がいるのかわからない